









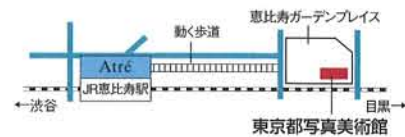
東京都写真美術館●展覧会スケジュール

	11月	12月	2003/1月	2月	3月
3F 展示室	「四国霊場八十八ヶ所 空海と遍路文化」展 10月1日(火)~11月17日(日)	 SSF世界スポーツフォトコンテスト2002展 12月20日(金)~1月13日(月・祝)	メモワール 高田美の50年 1月18日(土)~2月23日(日)		文化庁メディア 芸術祭 2月28日(金) ~3月9日(日) 上野彦馬賞展 3月14日(金) ~3月23日(日)
2F 展示室	「四国霊場八十八ヶ所 空海と遍路文化」展 10月1日(火)~11月17日(日)	 写真展・永遠の蒸気機関車「くろがねの勇者たち」 11月26日(火)~1月19日(日)	「セーヌ左岸の恋」エド・ヴァン・ デル・エルスケン写真展 1月24日(金)~2月23日(日)		文化庁メディア 芸術祭 2月28日(金) ~3月9日(日) JPS展 3月13日(木) ~3月23日(日)
1F ホール	「さゝなみ」 11月23日(土)~12月27日(金)		「チベットの女/インの生涯」 1月5日(日)~2月7日(金)		文化庁メディア 芸術祭 2月28日(金) ~3月9日(日)
B1F 映像展示室	グローバルメディア2002 11月29日(金)~12月17日(火)				絵コンテの宇宙 2月28日(金) ~3月23日(日) (予定)
	「聴く・観る 山本周五郎の世界」 10月25日(金)~11月24日(日)	ミュージックビデオ/新しい感受性をのせて 12月22日(日)~2月20日(木)			

■ご利用案内

*全館セット割引チケットの販売：お得な割引料金で3つの展覧会をご覧いただけるチケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。

- 休館日：毎週月曜日
(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日)
- 年末年始の休館日
12月28日(土)~2003年1月4日(土)まで
- 開館時間：10:00~18:00(木・金は20:00まで)
入館は閉館の30分前まで



http://www.tokyo-photo-museum.or.jp
Tel.03-3280-0099 Fax.03-3280-0033
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内
JR恵比寿駅東口より徒歩約7分
当館には駐車場はありません。お車のご来館はご遠慮ください。

東京都写真美術館ニュース 36号 ●発行日：2002年11月18日 / 企画・編集：東京都写真美術館学芸課 普及係 ●印刷・製本：JTB印刷株式会社 ●発行：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2002 ●本紙掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



東京都写真美術館ニュース [アイズ]

eyes 02



Vol. 36

写真展・永遠の蒸気機関車

くろがねの勇者たち

Steel and Steam: Unforgettable Steam Engines in Photographs

●一般500(400)円●学生400(320)円●中高生・65歳以上250(200)円

▶()内は20名以上の団体料金および上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料

※第3水曜日は65歳以上無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料

主催：永遠の蒸気機関車実行委員会／東京都／東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会

後援：国土交通省／鉄道友の会／(財)東日本鉄道文化財団／JR東日本／JR貨物／日本鉄道写真家協会／講談社

助成：UFJ信託文化財団 協賛：JR東日本／モデルズ井門／富士写真フィルム／ニコン／キヤノン販売／JTB／花王

協力：交通博物館／東京富士美術館／交友社／エリエイ／ネコ・パブリッシング／光村印刷／東武鉄道／天賞堂

サッポロビール／写真弘社／東京スタジオ／フォト・ギャラリー・インターナショナル



島田謹介《釜石線の列車》1950年頃(東京都写真美術館蔵)

第1部 写真家たちのとらえた蒸気機関車たち

アンドレ・ケルテス、アルフレッド・スティエグリッツ、名取洋之助、武林盛一、森山大道、島田謹介、アルフォンソ・テルプロー、ウィリアム・ヘンリー・ジャクソン、カールトン・E・ワトキンス、古川成俊、小関庄太郎、菌部澄、ジョン・スチュワート、O・ウィンストン・リンク 他

第2部 珠玉の明治期鉄道写真

交通博物館所蔵「岩崎・渡辺鉄道コレクション」より

第3部 蒸気機関車の黄金時代から終焉まで

吉川速男、西尾克三郎、臼井茂信、黒岩保美、広田尚敬

その時代にワーブして見られると写真というのは面白いね。(広田)

名取 わが国の営業鉄道開業から130年になるわけですが、そのうちの100年余りは蒸気機関車の時代だったわけです。今回の写真展はその時代を写真で振り返ろうという企画なわけですが、それにしても今回出品されている明治初期の写真は絵はがきのものが多いですね。

広田 お土産みたいな、ね。最初は鉄道も交通機関でありながら、一般的ではなかった。運賃が高かったんです。みんな、汽車に乗れなくて「あれは見るものだ」って(笑)。

名取 黒船じゃないですけど、悪いものが入ってくるからと鉄道敷設阻止の動きもあって…。

広田 わざわざ大きな街を迂回して鉄道を引いたんです。おかげで風光明媚な路線ができて、今の我々はうれしい思いをしてるんですけどね。

名取 そうやって時代背景を含めて作品を見ていただくと面白いですね。

広田 ある程度、歴史をふまえてというか、その時代に自分もワーブして見られると、写真というのは面白いんですよ。



PROFILE

なとり のりゆき

月刊鉄道趣味誌「Rail Magazine」(発行：株式会社ネコ・パブリッシング)編集長。写真を重視した誌面作りで定評がある。1998年より広田尚敬氏とともにイヤーブック『鉄道写真』の編集にも取り組んでいる。個人的には専用鉄道、軽便鉄道等に造詣が深い。英国ナローゲージ・ソサエティー会員。1957年東京生まれ東京育ち。



PROFILE

ひろた なおたか

1935年生まれ。中央大学経済学部卒業。鉄道写真のバイオニアであり第一人者として、40年来鉄道写真を撮り続けている。著書は『撮った/国鉄全線2万3000キロ』(講談社)、『動止フォトグラフ』(交友社)、『僕のローカル線』(山と溪谷社)、など150冊に及ぶ。日本鉄道写真作家協会会長。本展覧会には約30点を出品している。

岩崎・渡辺鉄道コレクションはファンの目で撮ってますね。(広田)

名取 明治も30年代になると鉄道が全国に広がり、鉄道写真の世界でもいわゆる「岩崎・渡辺鉄道コレクション」が登場するわけですけど、この物量のすごさは奇跡的ですよ。それも仕事ではなく趣味。この時代に趣味にこれほどの資金と情熱をつぎ込んで全国の機関車を撮り歩いたなんていう例は、世界的にもないでしょう。岩崎財閥の資力も背景にあったことですが。

広田 しかも自分で撮るんじゃなくて、当時の著名な写真師に撮らせてるんだから。すごくお金がかかりますよ。

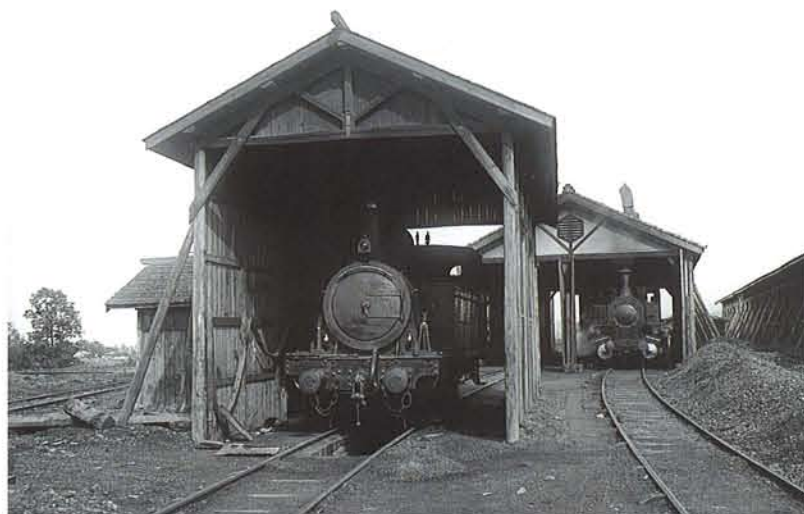
名取 それに岩崎・渡辺鉄道コレクションからは「本当にお二人は機関車が好きなんだな」というのがにじみ出ている。相手の機関車を一番特徴的に美しく見せようという角度を心得てシャッターを切っている、いや、切らせている。

広田 本当に、これはファンの目です。それとカメラマンの目でいくと、建物の柱が全部重なってなくて、何本あるかを数えられるくらい微妙な線に来ている。そういうあたりは「三脚を立てる位置は一カ所しかない」というくらい非常に計算しています。

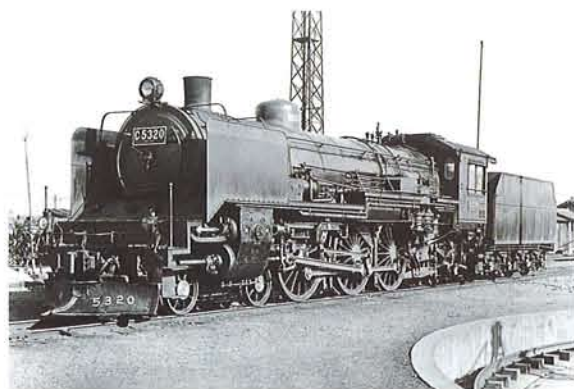
名取 最良の撮影ポイントって、本当に一人一人が立てる広さしかないんですよ。

対談●くろがねの勇者たち

広田尚敬 写真家 × 名取紀之 『Rail Magazine』編集長



岩崎 渡邊鉄道コレクションより《形式1900 岩越鉄道》1896年、イギリス、ベイヤー・ピーコック社製（交通博物館蔵）



西尾克三郎《形式C53、鷹取機関区》
1938年12月25日©Tatsuko Nishio

逆光であるにも関わらず、ディテールがよく出ている。極端な話、向こう側の車輪の裏側まで見えるんじゃないか、ってぐらい見えてるわけですよ。

広田 西尾さんのすごいところは技術も素晴らしいけれども、やっぱり楽しんで撮っておられる。しかも一人でコツコツやるんじゃないくて、趣味の仲間

たちと「来い、来い。こっち来い！ここいいぞお！」なんてやるんですよ。

名取 作画という面で言うと、その西尾さんの写真を「剛」とするならば、広田さんの昔の作風はまさに「柔」ですよ。まるでその時代の時間を切り取ったような…。

広田 自分の写真も、昔の方がうまかったね（笑）。やっぱり気持ち良く撮ってますよ。

名取 そうですか。

広田 なんか、にこにこしながら撮っているという感じです。

広田さんの作品からは 気持ちが伝わってきますね。（名取）

広田 西尾克三郎さんの写真もそうなんですけど、「なんでこんなにきれいに写るんだ」っていうくらい機関車のディテールが写っているわけですよ。それは撮り手側ががんばったところと被写体側ががんばっているところと二つあるんです。昔の機関車はきれいだったから撮りがいがあった。

名取 技術的な部分では、半逆光ですよ。半

名取 うん、そう。空気が伝わってくる。

広田 車内の雰囲気がとても伝わってくる。

名取 たまたま乗り合わせた方なんですか？広田さん、間の取り方がうまいですね。あつという間に溶け込んで、シャッター押しちゃうんだ（笑）。



白井茂信《宗谷本線 塩狩峠 9600型》©Setsuko Usui

広田 今回、カラーとモノクロ両方を出品していますが、あんまりしかめっ面しく考えないで撮り分けています。でも、こっちのカラーを撮った時は、SLはもう最後の頃なんですよ。

名取 今回出品されているのは本当に、蒸気機関車末期の最後の日々ですよ。広田さん、すごく淋しい気持ちがあったんだな、というのが伝わってきます。

広田 青春を燃やしてくれた被写体ですからね。若い頃からずっと追いかけてきた彼らが、もうなくなるという、その淋しい気持ちがずい分出ていますね。

原画の迫力にふれるいい機会だから ぜひなめるように見てほしい。（名取）

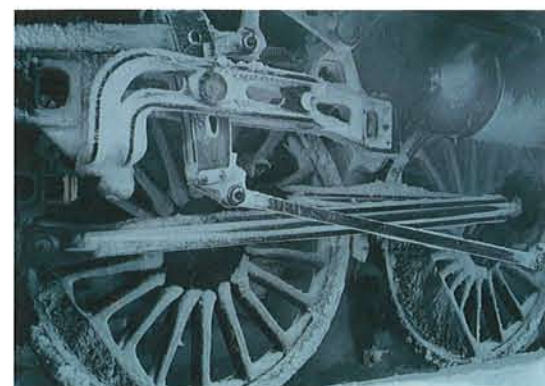
広田 写真というのは、時代背景が影響しているんですよ。だから写真を見ればその時代が

わかる。またそういう写真じゃないと、写真とはいえない。

この展覧会のほとんどがオリジナル・プリントだそうですね。

名取 印刷と違って、オリジナルのもつ迫力にふれるいい機会ですから、会場においでになった方には、普通は一步下がってと言うところですが、今回はぜひ近くに寄ってなめるように見ていただきたい。

広田 ルーベでも持ってね（笑）。展覧会に来られる方は非常に幸せですよ。



広田尚敬《宗谷本線 名寄 C5550》1973年12月（作家蔵）



広田尚敬《上野発成田行SL列車》より《オハ35》
1968年4月（作家蔵）

ギャラリートーク開催

日時/12月22日（日）15：00～17：00
ゲスト/広田尚敬（日本鉄道写真作家協会会長・写真家）
会場/東京都写真美術館2階展示室
（展覧会チケットをお持ちの方は無料）

- フロアレクチャー
期間中、第2・第4全曜日午後2時より展示解説を行います。（展覧会チケットをお持ちの方は無料）
- 友の会会員向けフロアレクチャーもご用意。日程等詳細はお問合せください。

B1F・映像展示室 12月22日(日)～2月20日(木) 友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

ミュージックビデオ／ 新しい感受性をのせて

Music Video / A vehicle for new sensitivity

●一般500(400)円 ●学生400(320)円
 ●中高生・65歳以上250(200)円
 ▶()内は20名以上の団体料金および上記カード会員割引料金
 ※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
 ※第3水曜日は65歳以上無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料
 主催：東京都／東京都写真美術館 協力：P.I.C.S.
 企画協力：寺井弘典 (P.I.C.S.)

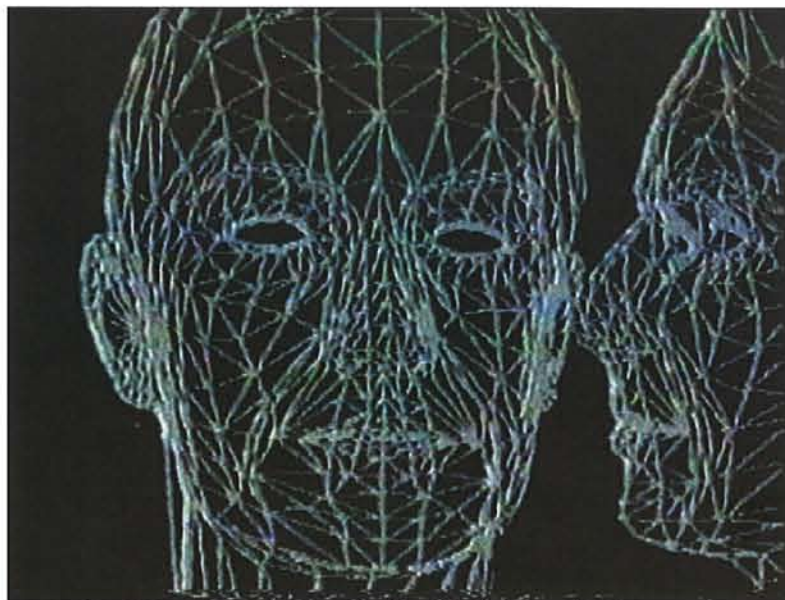


BEASTIE BOYS
「SABOTAGE」
2001年 ©東芝EMI

The Chemical Brothers
「LET FOREVER BE」
1999年 ©東芝EMI



The Chemical Brothers
「STAR GUITAR」2002年 ©東芝EMI



Kraftwerk 「MUSIQUE NON STOP」より、レベッカ・アレンによるCG ©東芝EMI

80年代のMTV (ミュージック・テレビジョン) 開局以来、「ミュージックビデオ」は常に映像表現の先端を走り続けてきました。

いつの時代も、最も優れた最新映像テクノロジーを駆使して創られ、先鋭的な表現を展開してきたミュージックビデオ。この展覧会では、海外でも高く評価される「日本のミュージックビデオ表現」、国内外の「ミュージックビデオ表現の軌跡」、そして斬新な試みを見せる「拡張するミュージックビデオ」といった切り口から多数の作品を紹介。映像とサウンドの共存／アートとしての意味を再考します。

注目は3つのパートに分けて行われるインスタレーション上映。サウンドと映像によるインスタレーション、日本を代表する作品群のシアター上映、ザ・ケミカル・ブラザーズ等による実験的な作品群やレベッカ・アレンによる「クラフトワーク：ミュージック・ノン・ストップ」など、先駆的な作品をあわせて紹介します。



RADIOHEAD 「KNIVES OUT」2001年 ©東芝EMI (2点とも)



RADIOHEAD BLIPS 「NON EXCLUSIVE WITH ISRC'S」2000年 ©東芝EMI

B1F・映像展示室 1F・創作室

2003年2月1日(土)・2日(日)

映像展関連ワークショップ
 「体験！映像プロジェクト／
 ショーイング&プレゼンテーション」Bコース

●時間：両日とも13：00～17：00
 ●ゲスト：ナガオカケンメイ(プロデューサー・2月1日)
 寺井弘典(映像クリエイター・2月2日)
 ミュージックビデオ展に合わせ、映像分野のアーティストやプロデューサーによるショーイングを行い、企画プレゼンテーションを体験します。

B1F・映像展示室 2003年2月28日(金)～3月23日(日) (予定)

第6回文化庁メディア芸術祭協賛事業

「絵コンテの宇宙」展

主催：東京都／東京都写真美術館

次々と大ヒットを記録する日本のアニメーション。通常は完成した作品だけしか目にできませんが、今回は、日ごろは表に出ることのない「絵コンテ」や制作過程を特集し、アートとしての意味を考え、表現の可能性を探ります。

B1F・映像展示室 11月29日(金)～12月17日(火) 友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

グローバルメディア2002

Global Media 2002

●一般500(400)円●学生400(320)円●中高生・65歳以上250(200)円

▶()内は20名以上の団体料金および上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料

※第3水曜日は65歳以上無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料

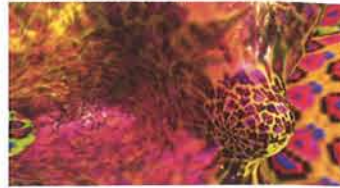
主催：東京都/東京都写真美術館 企画協力：NHKエンタープライズ21

後援：アルスエレクトロニカ・センター/

CG-ARTS協会(財団法人 画像情報教育振興協会)/日本バーチャルリアリティ学会

協力：キヤノン株式会社/日本ヒューレット・パッカード株式会社

河口洋一郎「Cerebran」2002年



Cell/66b「Faust II」パフォーマンス風景(3点とも)

日本の映像メディア表現は海外でも早くから高く評価されており、近年ではデジタルイメージを含む「映像メディア表現」が学校教育にも取り入れられるようになりました。「グローバルメディア2002」展では、目まぐるしく変わる映像メディア分野の中で独創的な表現を発信し続け、近年活躍の著しかった海外アーティストたちの作品を特集し、シーグラフやアルス・エレクトロニカなどのグローバルな活動領域を背景に、新たな可能性を探る新しい層に向けて紹介します。

映像展関連イベント

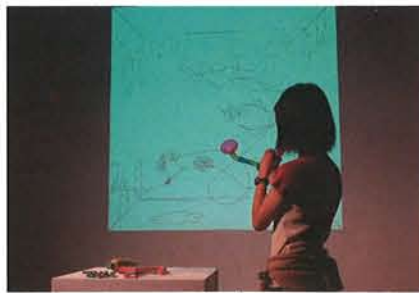
ワークショップ「体験!映像プロジェクト/ショーイング&プレゼンテーション」Aコース

ゲスト/大場康雄・高橋信雄・森野和馬(CGアーティスト)
●12月7日(土)・8日(日) 13:00～17:30

アーティストトーク

ゲスト/ジョシュア・デイビス(テクノロジスト/アーティスト)

●12月7日(土)15:00～ ●会場：B1F映像展示室内



高橋圭子/笹田普司/西光一「Rakugaki」
2001年 (Arts Electronica 2001 展示会場・参考図版)

3F・展示室 11月23日(土)～12月15日(日)

日中国交正常化30周年記念事業

遙かなる大地 馮学敏写真展<中国文化の源流を求めて>

●一般500(400)円●学生400(320)円●中高生・65歳以上250(200)円

▶()内は20名以上の団体料金

※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料

主催：馮学敏写真展実行委員会/朝日新聞社 共催：東京都写真美術館

後援：外務省/文化庁/NHK/中国大使館/新華社/人民日報海外版/光明日報/中国電視台/文匯報/中国新聞社

協賛：トヨタ自動車/日本コダック/再春館製薬所/シグマ 協力：堀内カラー/凸版印刷/アサツーデー・ケイ



プーアール茶の故郷より「アイニ族の娘」1997年8月
©FENG XUE-MIN

「太陽賞大賞」や「世界華人芸術大賞」などに輝き、海外でも高い評価を受けている馮学敏氏。日中国交正常化30周年を記念し、中国文化をこよなく愛し、優しさにあふれるまなざしで見つめ続けてきた氏が、15年間にわたって中国各地の歴史、自然、民族風情を撮り続けてきた作品を一挙に公開します。

馮学敏写真展ギャラリートーク開催

会期中の毎週日曜午後2:00より作家・馮学敏氏による展示解説を行います。展示会チケットをお持ちの方は無料でご参加いただけます。(当日受付)

3F・展示室 12月20日(金)～2003年1月13日(月)

SSF世界スポーツフォトコンテスト2002写真展

One Moment in Time

●一般600(480)円●学生500(400)円

●小中高生・65歳以上300(240)円

▶()内は20名以上の団体料金

※幼児および障害をお持ちの方とその介護者は無料

主催：SSF笹川スポーツ財団

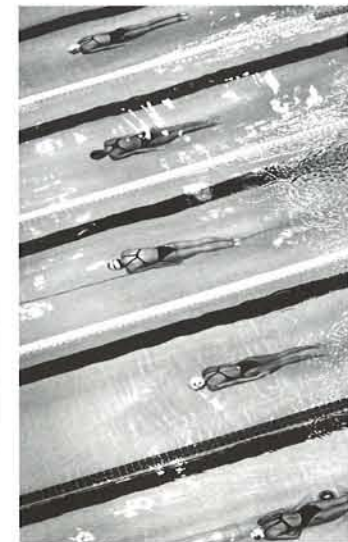
5回目を迎えた「SSF世界スポーツフォトコンテスト」は、今年も世界54カ国から約14,000点におよぶ作品が寄せられ、最優秀賞はじめ各賞が決定しました。

この展示会では、寄せられた作品の中から選ばれた優秀作品を公開。さらにスポーツ写真展では初の試みとなるDVDの上映会も開催します。



▲▶ゴールドプライズ(最優秀作品)
クレッグ・ゴールドディング
(オーストラリア)
(水泳の美学)より

お問合せ：
SSF世界スポーツフォトコンテスト事務局
Tel.03(3580)5854
<http://www.ssf.or.jp/>



3F・展示室 1月18日(土)～2月23日(日) 友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

メモワール 高田美の50年

50 ans de photographie à Paris : YOSHI TAKATA

●一般500(400)円●学生400(320)円●中高生・65歳以上250(200)円
▶()内は20名以上の団体料金および上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料
主催：高田美写真展実行委員会 共催：東京都写真美術館

1950年代からピエール・カルダンの片腕として活躍してきた高田美。ドァノーやカルチェ・ブレッソンを日本に紹介するなど、日仏文化の橋渡しとして活動してきました。そして自身も木村伊兵衛氏との出会いをきっかけに、カメラの世界へ。この展覧会では、パリの街角やアーティストたちの素顔を精緻な構図で表現した、彼女の50年にわたる写真家としての作品を公開します。



手押し車の待機 1956年



クリスマス前夜 1965年



ピエール・カルダンのコレクション会場にて 1964年
トップマヌカン松本弘子、ニクソン大統領夫妻、ベルナルド・ビュッフェ夫妻



2・3F・展示室 2月28日(金)～3月9日(日)

第6回文化庁メディア芸術祭 受賞作品展

●入場無料

主催：文化庁メディア芸術祭実行委員会 [文化庁/日本経済新聞社/CG-ARTS協会]

CG、インスタレーション、Web、ゲーム、アニメ、マンガなど、メディア芸術の分野をさまざまな方向から紹介するメディア芸術祭。その今年度の受賞作品を中心に、100点を越える優秀作品の展示と上映を行います。大賞受賞者によるパネルディスカッションの他、多彩なイベントも同時開催します。 <http://www.cgarts.or.jp/festival/>

2F・展示室 1月24日(金)～2月23日(日) 友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

“セーヌ左岸の恋”

エド・ヴァン・デル・エルスケン写真展

ED VAN DER ELSKEN “LOVE ON THE LEFT BANK”

●一般1,000円(900円)●中高生800円(600円)
▶()内は20名以上の団体料金および前売り料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料
主催：東京都写真美術館 後援：オランダ大使館 協力：東京書籍 制作：conversation/NADiff

第二次世界大戦後のパリ、サンジェルマン・デ・プレ。この「セーヌ左岸の恋」はエルスケンがカフェで出会った、時代のきしみに投げ出されて、どうしようもなく生きる若者たちの生活や恋愛を撮った作品です。写真とそれに添えたテキストにより、

「セーヌ左岸の恋」より 1950—1954年

映画的手法で構成されたフォトストーリー「セーヌ左岸の恋」。本展は、ストリート・フォトの頂点に立つ写真家エルスケンの処女作から、ただ傑作を抽出して展示するのではなく、オリジナルのレイアウトそのままに同比率で拡大し、展示しようとする試みです。「セーヌ左岸の恋」という物語の生の感動を伝えるために、発表されたオリジナルの姿を中心にして構成し、より多くの傑作を鑑賞していただきます。本作品は1998年以降の展示となりますが、今回は資料映像・資料展示を加え、より充実した内容になっています。



お問い合わせ：
conversation
Tel.03(5280)9996
<http://www.conversation.co.jp>

キャプションを考えよう!

子どものための写真展「写真ってなんだろう」来館者アンケートより



あーつかれた
(うえなみしおり・4歳) **ふたごでーす!!**
(浜野差沙恵子・10歳)

あせこの穴から、
誰かがのぞいているよ、**夏の子供服**
(すずきさとる・12歳) (細江優理子・23歳)



この2人の姉妹は、新しく
この町に住むことになりま
した。不安だなぁと思っ
ています。(毛利仁美・12歳)

孔越いけ泳で最後にして
(三石かおり・36歳) **なつばしずわい**
(むらおそう・7歳)

ソファでゆっくり
おやすみ。
(村上 舞・8歳) **きょうこの家とも
おわかれ。新しい洋服
を買ってもらったけれど**
私たち、さみしい……。
(戸賀健介・11歳)

あーあ、ひま
(高橋 悟・10歳)

「まらたひれたわ
いつにふたつ 私たち
大人にぼろのママ」
(福田桃代・13歳)



ブルース・デヴィッドソン (East 100th Street) より 1966-69年

おしてきぼりは、
やめよう
(清水 旺・9歳)

いっしょに
たいの。
(よしもとあいら・6歳)



谷川俊太郎さんがつけた3通りのキャプション例
せっかくおしゃれて出てきたのに、ふたりの幼い姉妹はふくれっつらをしている。
おめあてのピーチメルバを食べさせてもらえなかったからだ。
逮捕された誘拐犯がもっていた写真。おそらく誘拐直後に撮られたものだろう。
マリアとリサのゆくえははまだにわからない。
500人の候補者の中から雑誌の表紙のモデルに選ばれたアマンダとエラ。
撮影が3時間もつづき疲れきっている。

構成に詩人の谷川俊太郎さん、協力をコラムニストの天野祐吉さんを迎え、写真の役割や面白さについて考える写真展が、大盛況のうちに終了しました。その展覧会の中で、最も皆さんの興味をひいたのが「キャプション」。同じ写真でもキャプション(説明する文章)によって、写

真の印象が変わってしまう、というものです。谷川さんと天野さんも考えてくれました。ほら、同じ写真が全然違って見えますね。展覧会をご覧になった皆さんにも同じようにたくさんキャプションを考えていただきました。想像力豊かなキャプションがいっぱいです。



小川隆之 (New York Is)

夕あやかし
(なみさやか・7歳) 
あと5mで泳ぐ。
(工藤真理子・19歳)
地球温暖化して
こんなに早く来るよ
キーボードは壊るとい
て13ひと。
(高松未来・6歳) **思わなかった。**
(ないとうまさえ・大人)
 この写真にはおかしなところ
が3つあります。
全部さがせるかな。
(大松 康・27歳)

ぼ、ぼく、本当はおまけ
ないんだよ!!
(森 彩華・8歳)
サメがきたー!! おそわるるっ!!
ここであやふしなことがあった……。
(根本萌子・10歳)
およいでおとりのくに
までいっつも。がんばってぬ。
(松富ちひろ・6歳)
足をひっぱるのぼ
やのてくれー
(蒲生陸太・10歳)

天野祐吉さんがつけた3通りのキャプション例
遊泳禁止区域。サメに注意。
アメリカからキューバまで、
フロリダ海峡の遠泳に挑むマイケル・デイビス(14)
海がキミを待っている。夏休み水泳教室生徒募集中!

「あしつたあ!」
(泳ぐ前には準備体操)
(高橋陶子・19歳) **おねえちゃん、さきにいかならぬ。**
まてよー。
(梶井美咲・9歳)
家出してきました。
(大西 碧・9歳)

WORKSHOP!

12月～2003年3月の予定

映像展開連ワークショップ
「体験!映像プロジェクト/ショーイング&プレゼンテーション」
Aコース 2002年12月7日(土)・8日(日)
Bコース 2003年2月1日(土)・2日(日)

「永遠の蒸気機関車 くらがねの勇者たち」
関連セミナーワークショップ
「永遠の蒸気機関車」展に合わせて鉄道の歴史をはじめ、人間模様、絵画、文学などさまざまな視点から鉄道を考えるセミナーワークショップです。
Aコース 2003年1月12日(日)
Bコース 2003年1月13日(月、祝)

ホログラム・ワークショップ (上級者編)
Aコース 2003年1月18日(土)・19日(日)
Bコース 2003年1月25日(土)・26日(日)
セミナー・ワークショップ Day&Night
Aコース 2003年1月31日(金)・2月7日(金)・14日(金)
Bコース 2003年2月15日(土)・16日(日)

CG連続ワークショップ (第7期)
「映像/ゲームの背景を探る」
CGアニメーションや人気ゲームの制作過程にスポットをあてたショーイング&トーク、簡単なコンテ制作を行います。
2003年3月8日(土)・9日(日)

●ワークショップについての詳細は、館内備え付けの専用パンフレットまたはホームページをご覧ください。

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

当館では11月下旬より「写真美術館で見る映画」として、選りすぐりの作品をシリーズ上映いたします。美しい映像と心にしみる静かな感動をお楽しみください。

湧き出ようとすする娘の恋 涸れよとすする母の想い

さざなみ

Vol.1



前作「鉄塔武蔵野線」で文化庁優秀映画作品賞を受賞した長尾直樹監督のもと、第一線のスタッフが集結して作り上げた、美術館で上映するのにふさわしい完成された映像の作品です。亡くなった父に対する母の想いの深さ。恋愛に臆病になってしまった娘。これは、そんな母娘と二人を取り巻く人々の心のふれ合いの物語です。唯野未歩子、松坂慶子、豊川悦司の三人を軸に、静かで美しい世界が繰り広げられます。

■詳細ホームページ <http://www.sazanami.info>

- 上映スケジュール
11月23日(土)～12月27日(金)
※11/25、12/2、9、16、24は休映となります。
- 上映時間 11:00、13:30、16:00、18:50
- 料金 一般1,800円 学生1,500円

チベットの女

イシの生涯

Vol.2



中国映画界の巨匠シエ・フェイが、全編チベットロケ、チベット人俳優とスタッフを起用し、高度4,000mを超える圧倒的な景観をバックに描き上げた感動作。ツァンヤンギャツォ(ダライラマ6世)の恋歌に綴られるイシの愛と人生を通して、チベット50年の現代史を語る傑作です。2001年セントルイス国際映画祭グランプリ、2000年金鶏賞最優秀主演女優賞・最優秀脚本賞・最優秀音楽賞受賞。

■詳細ホームページ <http://www.bitters.co.jp>

- 上映スケジュール
1月5日(日)～2月7日(金)
※1/14、20、27、2/3は休映となります。※1/6(月)は上映
- 上映時間 10:20、12:30、14:40、16:50、19:00
- 料金 一般1,800円 学生1,500円

1F Museum Shop

2003年のカレンダー・ダイアリーを入荷!



ミュージアムショップでは、2003年のカレンダー・ダイアリーを入荷しました。また「くろがねの勇者たち」展に合わせ、機関車をはじめ乗り物のイラストをあしらったダイアリーも取り揃えています。年齢や男女を問わず使える魅力的なイラストはプレゼントにもぴったり。クリスマスギフトにも、ぜひどうぞ!

東京都写真美術館友の会 お得な特典がいっぱいです

友の会



東京都写真美術館では友の会会員を随時募集しています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引、ミュージアム・ショップでの割引(一部商品を除く)、美術館内カフェのコーヒーサービス、写真美術館ニュースeyes02の送付、学芸員によるフロアレクチャーなど、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もございます。また当館1階受付カウンター横に「友の会カウンター」を設置しました。お立ち寄りの際に、お気軽にご入会いただけます。

皆さまのご入会を心よりお待ちしております。●詳細は当美術館までお問い合わせください。

維持会員のご案内

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。(平成14年10月現在)

- | | |
|----------------|----------------|
| ●特別維持会員 | 第一建築サービス株式会社 |
| キャノン株式会社 | 大成建設株式会社 |
| 株式会社資生堂 | 大日本印刷株式会社 |
| 東京電力株式会社 | 株式会社竹中工務店 |
| 凸版印刷株式会社 | 株式会社電通 |
| 株式会社リコー | 東京ガス株式会社 |
| ●維持会員 | 東京急行電鉄株式会社 |
| 朝日新聞社 | 株式会社東京ドーム |
| アサヒビール株式会社 | 株式会社東芝 |
| 朝日放送株式会社 | 株式会社徳間書店 |
| 味の素株式会社 | トヨタ自動車株式会社 |
| 株式会社NTTドコモ | 株式会社ニコン |
| 株式会社大林組 | 日産自動車株式会社 |
| オリンパス光学工業株式会社 | 日本アイ・ビー・エム株式会社 |
| 鹿島建設株式会社 | 日本写真芸術専門学校 |
| カトーレック株式会社 | 日本写真作家協会 |
| キャノン販売株式会社 | 日本大学芸術学部 |
| 協和発酵工業株式会社 | 株式会社博報堂 |
| キリンビール株式会社 | 富士ゼロックス株式会社 |
| コダック株式会社 | 株式会社フジテレビジョン |
| 株式会社ザ・アール | ペンタックス株式会社 |
| サッポロビール株式会社 | 本田技研工業株式会社 |
| サントリー株式会社 | 森ビル株式会社 |
| ジェイティービー印刷株式会社 | 読売新聞社 |
| 清水建設株式会社 | ライオン株式会社 |
| セイコー株式会社 | 株式会社ワコール |
| ソニー株式会社 | (五十音順) |

NY支援チャリティーのご報告

「マグナムが撮ったNY9.11展」にご来場いただき、ありがとうございました。NY支援のため、チャリティー募金および観覧料収入の一部(2,621,864円)をNHK厚生文化事業団を通じて寄付させていただきました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

©Steve McCurry/
Magnum Photos Tokyo

